

街の歴史トリップ

第2回 人々のにぎわいの場・中島公園

博物館活動センターの古沢仁学芸員にお話を聞き、街に残る痕跡などから、札幌の成り立ちや今に迫ります。

【詳細】広報課 ☎211-2036

市民になじみの深い中島公園は、地形を生かした整備がなされ、人々がにぎわう公園になりました。今回は、その歴史の片りんが残る中島公園の歩みを振り返ります。

豊平川の激流で生まれた中州

扇状地をつくりながら網目状に激しく流れていた豊平川。その中州が、後の中島公園になる場所です(①)。川の流れを利用して建築用の木材を運ぶのに適した立地だったことから、1871(明治4)年ごろには木材を保管する貯木場(元右衛門堀)が造られ(②)、現在の菖蒲池の原型となりました。



出典:「札幌及び周辺部地盤地質図」(産総研、1991)・「北海道地盤地質図」No.1(道立地質研究所、1974)の旧河道の情報

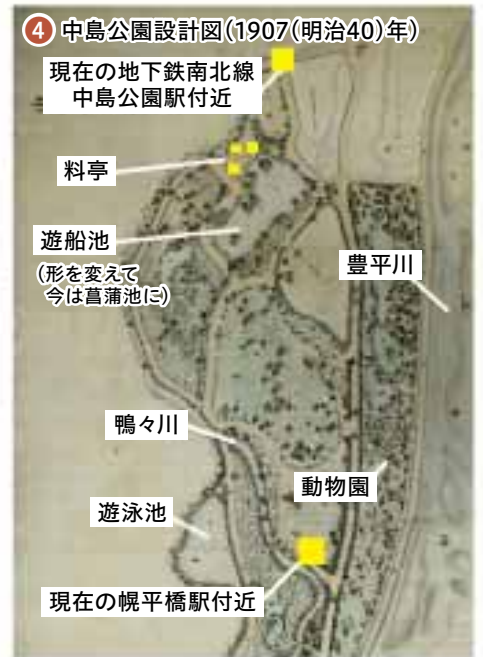
北海道大学附属図書館所蔵

中島遊園地から人々の憩いの公園に

1887(明治20)年までに中島遊園地として整備が進められると、競馬場や料亭ができるなど人々が集う場となり、1896(明治29)年ごろからは凍った池でスケートをする人もいました(③)。1907(明治40)年ごろには、造園技師・長岡安平が中島公園を設計。自然の池やかつての川の流れなどの地形を利用し、遊船池や遊泳池といった複数の池が計画されました(④)。



昭和初期撮影・札幌市公文書館所蔵



札幌市公文書館所蔵

天然氷を作る製氷場が園内に造られると、1923(大正12)年ごろから、夏はプールとして人々が泳ぐ場に。1958(昭和33)年に北海道大博覧会の会場になった際には、現在も残る天文台や、水面に向かって斜面をボートで降りるウォーターシュート(⑤)を設置。ウォーターシュートがあった丘は今もその姿をとどめています(⑥)。



1958(昭和33)年撮影・札幌市公文書館所蔵



中島公園

所在地中央区中島公園
交通機関地下鉄南北線中島公園駅下車

古沢学芸員のひとこと /

地形を生かし、時代ごとに市民の娯楽や教養などのニーズに応え、にぎわってきた中島公園。その歩みに思いを寄せ、歴史の痕跡を探しながら、園内を散策してみませんか。